



羽生結弦さんが語る

いま
“現在、これから”

仙台は大切なホームタウン。

この街の魅力を、もっともっと発信していきたいですね。

——僕にとって仙台は、「帰るべき場所」。普段の僕は、何処にいても何をしてもスケートのことばかり考えています。ただひたすらスケートのことを考え、滑る時は無心で滑りたい。それがいちばん自分らしい。仙台にいる時も基本的には同じですが、それでもどこかで他にはない安堵感のようなものを感じている気がします。仙台=ホームなんですね、やっぱり。今日の撮影をしてくれている能登直（のとすなお）さんは、僕が仙台のリンクで滑っていた小さなころからずっと撮り続けてくれているカメラマン。彼の仕事に対しては心から信頼していますし、どんなに大きな大会に出ても、どんなに遠い国の氷上にも立っていても、カメラマン席に能登さんの顔を見つけると、僕は「ああ、きっと仙台のみんなも応援してくれているんだ」と心を落ち着けることができます。アスリートとして、アーティストとしての僕を支えてくれる大切な存在、それが仙台という街なんだと思います。

「仙台の素晴らしいところをもっと見つけていきたい」と羽生さんは言う。「まだ気がついていない魅力や、これから生まれてくる魅力。世界に誇れる魅力ある街」だと。

——仙台を離れていることのほうが多い今だからこそ、仙台の良さにたくさん気づけたのかもしれないですね。だから、初めて仙台を知る方々だけでなく、仙台で暮らす方々にも、「こんないいところ、いいものがあるんだ」と再発見を楽しんでもらえると嬉しいです。……東日本大震災の発生以降、街は着実に復興の道を歩んできましたが、全体を見渡せばまだまだこれから、というところもあります。だからこそ、皆さんにこの街の「いま」を実際に来て、見て、体感してもらえたらと思います。

